

令和4年11月1日
大田区立馬込小学校
校長 山本 秀一
道徳部
R4 年度 第2号

道徳だより

こころのたね

たてわりロング集会（本年度第2回目）

10月19日（水）に本年度2回目のたてわりロング集会がありました。これは1つの班に1年生から6年生までの児童が均等に所属するように21の班をつくり、学年の枠を超えて様々な活動を行います。班長などのリーダーは6年生です。

少々、話を昭和時代に戻したいと思います。地域には「仲間集団」というものがありました。しかも目的はただ楽しく遊ぶためだけです。しかし、その集団の中では、約束や決まりがありました。例えば、力の強い者が弱い者をかばうなど。つまり「年長者が年少者を守る」ということです。年長の子供たちは自らの体験に基づいてそれを自覚し、年少の子供たちは年長者の言動からそのことを学びます。経験の差や体力の差に応じて役割が生まれ、それを果たすことによって、仲間集団の最大の目的である遊びをより充実したものにすることが可能になっていったわけです。

時代は平成から令和になり、地域での子供たちの遊びの形も大きく変わっています。しかし、本校のたてわり班活動を見ていると、6年生が下級生に対して自発的にリーダーシップをとり、遊び方などを優しく教える場面が多く見られます。また、下級生も上級生の行動を見ることで、「6年生になったら、同じことをしたい。」という意識も芽生えているように感じます。

このような学年を越えた活動を通して、社会性というものを身に付けてほしいと願っています。

2年生の道徳科の時間

今回は2年生です。コロの気持ちの変化を考えることを通して、明るく素直な心で生活しようとする心情を育てるのがねらいです。

テーマ：正直、誠実

あらすじ：こおろぎのコロは、自分のわがままのせいで友だちのギロを怒らせてしまいました。謝らなければと思いつつ、なかなか素直になれない中、お月さまから、「元気に歌ってごらん。」と励ましてもらったことで素直な気持ちをもつことができたというお話です。

コロの心の中で、「あやまるんだ。」「あやまらなくてもいいんだ。」という二つの気持ちが揺れ動いています。その後、お月さまにやさしく声をかけられ、なぐさめの言葉をかけてもらいます。お月さまの言葉をきっかけに、心が晴れやかになり、コロの気持ちに変化が生まれます。このときのコロの心情を子供たちに聞きました。

⇒裏面に続きます

教師の問い

お月様に、「いつもその気持ちでいるんだよ。」と言われたコロは、どんなことを思ったのでしょうか。

子どもたちの考え

- ・ギロくんにあやまろう。悪いことをしちゃったな。
- ・お月様の言うとおりで。いつもその気持ちでいよう。友だちでいたいから、ギロくんにあやまろう。

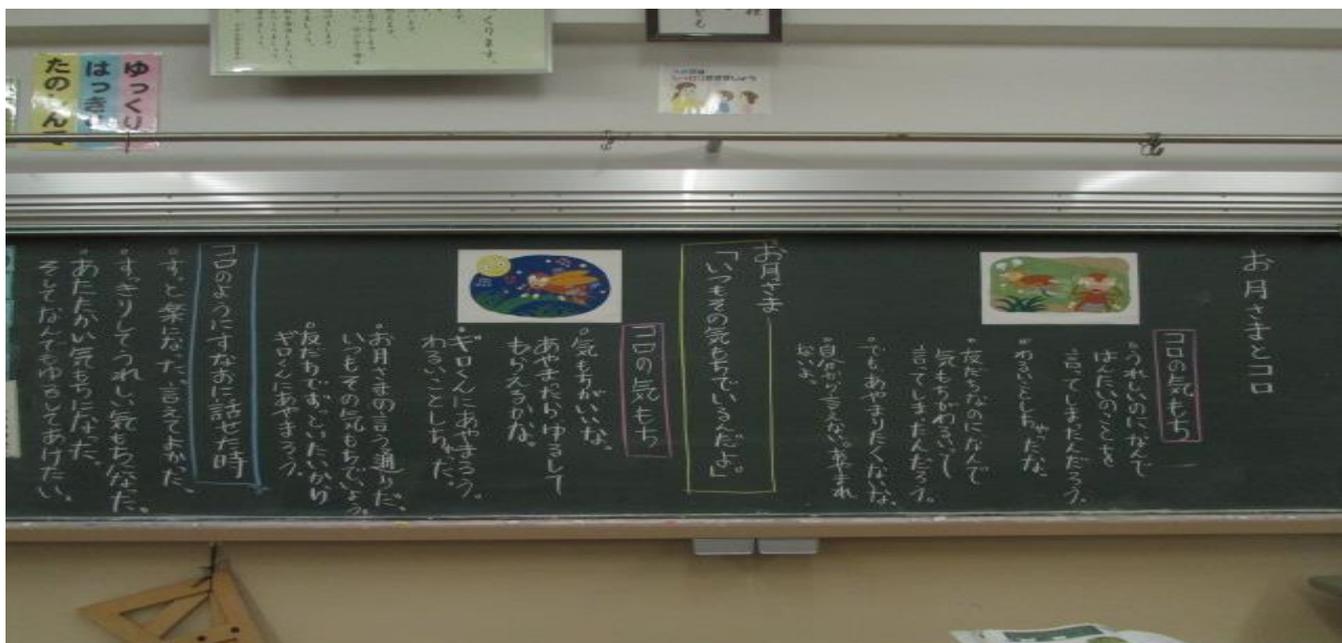
授業の後半では、今日の道徳のねらいである、「明るく素直な心で生活しようとする心情」について、あらためて子供たちの意見を聞き、ふり返りをしました。

教師の問い

コロのように、素直に話せたとき、みんなはどんな気持ちになりましたか。

子どもたちの考え

- ・ずっと楽になった。言えてよかったと思った。
- ・温かい気持ちになった。そして、何でも許したくなる気持ちになった。



「言葉の力」

秋も深まり、冬の訪れも間近になっています。通勤途中、駅まで歩くとき、みかんの木を見つけました。木の周りはフェンスで囲まれているのですが、そこに張り紙が貼られています。『みかんを盗らないでね』と。中学校の前という場所柄、ふり仮名まで丁寧に書かれています。ただ、なぜか不思議と優しい気持ちになりました。これがもし、『みかんを盗るな』と書いてあると、何となく反発したくなる気持ちになります。みかんの木の所有者は、恐らくみかんを盗られたのかもしれませんが。しかし、それでもなお、張り紙に丁寧な言葉で綴ろうとする寛容さに、言葉の力を感しました。